

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	筑波大学
整理番号	A03
構想名	トランスボーダー大学がひらく高等教育と世界の未来

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、教育研究の国際化に資する「トランスボーダー大学」を構築・発展させることを目的とし、さまざまな取組みが展開されてきた。学長主導のガバナンス体制も構築されている。</p> <p>特に、「Campus-in-Campus (CiC)」、「海外教育研究ユニット招致」、「ダブルディグリープログラム」等が積極的に実施されており、すでに「教育研究の国際化」が実現されつつある。「科目ジュークボックス」には多くの科目が提供されており、単位認定数（読み替え無し・読み替えあり）も増加してきた。また、令和2年度からはコロナ禍の状況に対応し、オンライン科目が提供され、バーチャル留学の受け入れを開始した。「海外教育研究ユニット」においては、副 Principal Investigators (PIs) を常勤教員として採用し、副 PIs が学位論文審査の副査を務めている。事務局は、プログラムの実施を英語で対応している。海外分校の開設も予定しており、国際的な観点から先端大学となるべく、中長期計画・戦略が練られている。</p> <p>しかしながら、「Campus-in-Campus」、「海外教育研究ユニット招致」への参加教員数・学生数は多いとは言えない。今後、上記プログラムの量的拡大が望まれる。また、ダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラムを発展させ、さらなる国際教育研究プログラムの拡張を図っていただきたい。</p> <p>大学全体としては、「日本人留学経験者数」及び「英語による授業科目数」の目標値に達していない。また、「外国語のみで卒業できるコース数・在籍者数」も更なる向上を期待したい。国際的な評価・教育研究力の向上には、特に大学院における「英語による授業科目数」、「外国語のみで卒業できるコース数・在籍者数」を増やす必要がある。「シラバスの英語化」については目標値を達成してはいるが、「シラバスの英語化率」は非常に低い。本構想の大学全体の教育研究プログラムにおける位置付けがやや不明で、今後、ボーダーレスな国際教育研究プログラムが、目標値達成如何に関わらず全学的に展開されることが望まれる。</p> <p>「財政支援期間終了後を見据えた自走化計画」については、財源（「筑波大学基金」、「共同研究費」、「産学連携の国際展開」、「クラウドファンディング」等）の確保・拡張が十分に検討されており、また、「大学経営推進局」の設置（令和3年）による経営基盤強化が図られる予定であり、実現可能だと思われる。ただし、コロナ禍での資金獲得、資金運用については不測な点もあり、柔軟に対処・対応していただきたい。</p>	